ハイリスク・ポピュレーションアプローチの
両面による

介護予防の取組

熊本県長洲町

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

高齢者 / 子ども / 若者 / 地域住民 / 障害者 / 生活困窮者 / 認知症の方 / その他

基礎情報		
	人口（R7.1月時点）	15,220人
	高齢化率（R7.1月時点）	37.4%
	要介護認定率（R7.1月時点）	17.7%
	取組の予算規模（年間）	-

詳細はHPから

https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kyushu/newpage_00204.html

取組概要

- 長洲町では、ハイリスクアプローチとして、フレイル疑いの者、重症化予防対象者への支援や糖尿病性腎症重症化予防の取組、健康状態不明者への支援を実施すると同時に、ポピュレーションアプローチとして、シニア男性のこれカラダ健康教室、フレイル予防健康講話、食生活改善推進員協議会への支援、体力測定、長洲町丈夫な身体づくりプロジェクト（骨折予防を目的とした健康講話や体力測定等の教室）に取り組んでいる。

背景・きっかけ

- 高額医療費、新規要介護認定の原因疾患である骨折、認知症予防のため、早期介入を行い、通いの場や総合事業、介護サービスにつなげるため支援を開始した。
- フレイル・重症化予防のためハイリスクアプローチやフレイル講話を開始した。
- シニア男性のこれカラダ健康教室は、地域ケア会議で高齢者の男性が一人暮らしになった際、料理や居場所づくり等の課題が複数回挙がったため、教室を開始した。



オンライン講座の様子

取組の経緯

- 骨折・認知症疑いの者への支援については、毎月支援者1人につき対象者を1～2名とし、支援が確実にできる人数、介護サービスのない者等優先順位を支援スタッフと相談し、支援を行った。
- 一体的実施事業に携わるスタッフ以外に、地域支援や総合事業を担当する部署と連携し、地域の活動の状況や共同でできる事業等について年に2回会議を行い、連携を図った。



健康講座の様子

介護予防の取組
熊本県長洲町

取組詳細

- **取組内容**
  - ✓ ハイリスクアプローチ
    - ✓ フレイル疑いの者、重症化予防対象者への支援、糖尿病性腎症重症化予防、健康状態不明者への支援：対象者を抽出し、適切な支援につなげている。
  - ✓ ポピュレーションアプローチ
    - ✓ シニア男性のこれカラダ健康教室、フレイル予防健康講話、食生活改善推進員協議会への支援、体力測定
    - ✓ 長洲町丈夫なカラダづくりプロジェクト：骨折予防や「自分の脚でいつまでも歩き続ける」を目的に健康講話や体力測定等の教室を実施。
- **実施体制**
  - ✓ 主体：健康づくり課・国保医療係（事業統括、ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチの実施）
  - ✓ 連携先：社会福祉協議会（町が実施したハイリスクアプローチの結果について情報共有し対象者に応じて総合事業や介護申請等を案内、体力測定等で連携）、食生活改善推進員（町の管理栄養士がフレイル予防の講習会を会員に実施し、講習会で習ったことを介護予防拠点等で住民対象に講座を実施）、委託業者（フレイル予防、重症化予防対象者への支援を委託）
- **財源**
  - ✓ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業：R2年～

取組のポイント

- **関係者との連携**

町関係者のそれぞれの業務を知ることで、連携できる内容やそれぞれが抱えている問題点の把握につながった。また、支援者が町にある通いの場や総合事業、介護サービスを把握することで、対象者に紹介しやすくなった。

成果

- 定量面（R3～６年成果）　：
  - ✓ 健診受診者数（受診率）の上昇：医科では、受診者が292人増（+8.8%）
    歯科では、受診者が44人増加（+1.4%）
  - ✓ ハイリスクアプローチ支援者数の増加：4年間で102人増加
  - ✓ ポピュレーションアプローチ支援者数の増加： 4年間で延べ人数342人増加 （事業数同数、通いの場4か所増加）
- 定性面（R3～６年成果）　：
  - ✓ 活動を通じて、「フレイル」という言葉を知る人が多くなっており、健康教室参加者は別の教室に個人もしくは友人と一緒に参加するなど、住民の健康づくりの輪が広がっている。
  - ✓ 関係者と情報共有を行うことで、保健指導や窓口業務時に専門職の介入や総合事業等につなげたほうが良いのではないか、という視点をもつことができた。また、介入が必要と感じた者については、関係者に相談がしやすくなった。
  - ✓ 委託業者に支援を依頼することで、マンパワー不足を解消することができた。





ポピュレーションアプローチの取組の様子

今後の展望

- 現在実施している事業の継続。 重症化予防事業、フレイル予防事業については、参加者が伸び悩んでいるため、対象者が参加しやすいような事業の周知、資料の工夫等を行い、参加者数の増加、重症化予防につなげていく。